

(一七六四)

二
（宝曆十四年カ）三月 高山彦九郎京都遊学につき祖父あ
て置文〔A〕

奉^{いいつつうたてまつり}一通^ニ候、拙者^{京学}二罷^{せつしやきようがく}出候、此義^{まかりいで}申^{このぎ}上度^{もうしあげなくぞんじたてまつりそうち}奉^{ひそかに}存^{まかりいで}候

得^{えども}共^{かえつて}却^{とめならるべく}而御^レ留可^レ被^レ成^レ与^一奉^レ存[、]竊^{ひそかに}罷^{まかり}出候、京都^ご二知人御^{かならす}座候^ざ而^マ此人^{こし}之方^{もうすべく}へ罷^{まかり}越^可レ申^与奉^レ存^{候、}必^{かならず}々御^{ごあんじごと}案事^ご被^{なしこだされ}成^{まじく}下^二間敷候^一

(帶) 一對刀者学者之法^二御座候^{得者、}一通^{り言上}仕^{大小頂戴}仕^{つかまつりたく}度奉^レ存候^{得共、}此義^{」申上候者}罷^{まかりで}出ル事御^{留可}被^レ下^一与^一存[、]竊^{びせんかねみつ}二藏中之御宝備前兼光之刀[、]菊^{きく}一文字之脇差^{わきざし}取出シ、
対刀仕^仕、罷出候[、]何卒此御宝拙者^ニ餞別^{せんべつ}与^{思召可}被^レ下^一

拙者^{がくちん}学文三四四年茂仕^{がくしり}、罷^{じがん}帰^{をはいしたてまつるべく}、可^レ奉^レ拜^{おぼしめし}ニ慈顏^{わきざし}一候

謹言^{きんげん}

(宝曆十四年カ)
三月今夜

祖 父様江

彦 九 郎